

巻きチラシ置き配りの仕掛け

1. 背景

チラシの置き方が配布率に与える影響を検証するため、2022年12月と2023年1月に阪大坂で「巻きチラシ置き配り」に関する実験を2回実施した。今回は具体的な実験内容及び実験結果を報告する。

2. 実験①

2022年12月22(木)16:40～19:00に大阪大学豊中キャンパスの阪大坂にチラシをマグネットで挟んで置く「マグネット挟み置き配り」(図1)で置いて行動観察を行なった。その結果、通行人410人のうち、チラシに気付いた人は21人、チラシを持ち帰った人は0人だったであり、**配布率0%**であった。



図1 マグネット挟み置き配り

3. 実験②

2023年1月23日(月)11:00～20:00、1月24(火)11:00～20:00に阪大坂にチラシを丸めて立てて置く「巻きチラシ置き配り」(図2)で置いた。両日とも初期配置は30枚、17時と20時時点でのチラシの残り枚数を計測した。実験の結果(表1)、チラシは60枚のうち54枚持ち帰られ、**配布率90%**という結果になった。

表1 巻きチラシ置き配りの実験結果

	チラシの残数		
	11:00	17:00	20:00
1月23日	30	0	0
1月24日	30	16	6



図2 巻きチラシ置き配り

4. 結論と今後の課題

巻きチラシ置き配りはチラシの配布率が大幅に向上することが明らかになった。手に取りやすさが配布率に影響を与えたと考えられる。今後は他の「置き配り」と比較して巻きチラシ置き配りの効果をさらに検証したい。